

平成 26 年 5 月 7 日 作成 余語覚文  
平成 26 年 5 月 8 日 改訂 余語覚文  
平成 26 年 5 月 13 日 改訂 余語覚文

## ビーム物理領域インフォーマルミーティング (ビーム物理研究会世話人会) 議事録

日時：平成 26 年 3 月 28 日（金） 17：30～

会場：東海大学湘南キャンパス TM 会場

出席者（順不同・敬称略）

上坂、川瀬、栗木、佐々木、清宮、紀井、宮本（篤）、境、野崎、平田、庄司、神門、  
本田、富沢、今、細貝、鷺尾、兒玉、坂上、鎌田、中村、小方、益田、阿達、余語、山  
本、中新

司会：阿達

書記：余語、山本

配布資料：前回議事録（2014S-1）

議事内容：

1. 前回議事録確認
2. 報告・審議事項
  - 2-1 日本物理学会ビーム物理領域関連
  - 2-2 ビーム物理研究会関連
  - 2-3 日本加速器学会関連
3. その他

## 1. 前回議事録確認

平成 25 年 8 月 3 日に開催されたビーム物理研究会世話人会（第 10 回日本加速器学会年会、名古屋大学）の議事録について確認され、承認された。

## 2. 報告・審議事項

### 2-1 日本物理学会ビーム物理領域関連

#### 一般講演について

前回大会では 162 件（合同を含まない場合は 74 件）であったのに対し、今大会では 78 件（合同を含まない場合は 55 件）であったことが報告された。要因としては分析中であるが、合同セッションを組むにあたって、相手領域の講演を必ずしも全て取り込めなかったことがあげられる。また、前回と比較して J-PARC 関連の講演が減少しており、前年のトラブルが影響している可能性が指摘された。合同を含まない場合の件数が減少しているため、単独開催セッションの件数を増やしていく必要がある。件数の推移、今大会の他領域との比較、および所属機関の内訳に関する資料が示され、ビーム物理領域の件数は全領域で最少であったことが報告された。

●カッコ内の数字の意味は何か？

←カッコ内は事務局に問い合わせた数字、カッコ無しはプログラムから集計した数字である。

#### 他領域との合同セッションについて

前回大会では 126 件（ビーム物理の寄与：38 件）、今回は 69 件（ビーム物理の寄与：28 件）であった。他領域に声をかけた件数自体は、前回も今回も同程度であるが、件数は減少したことが報告された。

#### 招待・企画公演について

前回大会では、2 件の招待講演と 3 件の企画講演を実施、今大会では、1 件の企画公演を実施した。（以上に若手奨励賞受賞記念講演を含まず）

#### シンポジウム講演について

前回では主催 2 件、共催 2 件を実施、今大会では主催 1 件、共催 2 件を実施した。

### 来春のシンポジウム案について

前回の世話人会において、次期光源関連、医学物理関連の2件の提案があったことが報告された。

●加速器と検出器の合同シンポジウムを開催してはどうか？数年前のセッションで、検出器の研究者が少ないという問題が提議されている。

←具体的に、どのような検出器の研究者を呼ぶのか？

←指定するか、推薦してもらう必要がある。

●相手領域をどのように決めたらよいか？

●あらかじめ「目次」のようなものがないと、声をかけるのが難しいのではないかと？

●学会で提案する前に、提案者としてストーリーを作るべきである。

次期光源に関する提案について

●扱うテーマの範囲が大きいので、いくつかのテーマに分割して、シリーズ化してはどうか？

●物理学会であるのだから、背景に物理がなくてはならない。

●物理のストーリーに関する「目次」が必要である。部外者や学生にも分かりやすいものである必要がある。

←以上は次回の夏の世話人会までに具体化することとなった。

### 若手奨励賞受賞記念講演について

今大会の受賞者：1名

京大化研の井上氏が受賞したことが報告された。

今回は2名まで受賞可能であったが、若手奨励賞の授与可能件数は3年毎の見直し時に直近3年の講演件数から算出されるので、講演件数を維持できるよう努力すべきである

●年齢について、37歳以上であるが応募できるか、との問い合わせがあった。年齢は領域ごとに判断してよいとのことであるが、あいまいである。年齢制限を緩やかにして、応募者数を増やす試みをしてはどうか？他の領域は、年齢制限に関しては柔軟に対応しているようである。(上坂会長)

←年齢についての規則には「原則として」とあるので、可能ではないか。

●次回の応募は締め切りを「7月中」としてほしい。(上坂会長)

### 来年度大会までのスケジュールについて

秋季大会におけるシンポジウム講演の申し込み締め切りについてリマインドされた。注意喚起として、領域2は国際会議 PLASMA2014へ完全に移行され、秋季大会中には開催されないことが報告された。

また、次回年次大会に関する重要な日程として、

合同セッションの申し込み締切：2014年9月上旬

招待・企画・チュートリアル・シンポジウム講演の申し込み締切：2014年11月中旬

(ただし、1か月前位に提出すること)

一般講演の申し込み締切：2014年11月下旬

であることが報告された。

#### 研究機関の諸委員会委員等の推薦方法について

前回世話人会からの継続審議事項として、大阪大学レーザーエネルギー学研究センター共同利用専門委員会の学外委員の推薦依頼の件について審議された。前回の世話人会での審議内容の説明の後、下記の意見が提議された。

●重要な案件であるとする。ビーム物理研究会が研究集団として認められた証拠であるし、それによってビーム物理研究会のステータスも上がる。次回以降は積極的に受けるべきである。

●過去に、ある研究機関の改組にあたって、推薦書を書いたことがある。

←過去に事例があったのが分かったのは良かった。前回の世話人会では過去の事例の有無が分からなかったため、判断が難しかった。

●会則にない事柄に対してどう対応するか、という点において、初めてのケースであった。今後はメールで議論してからポジティブに対応する、ということで良いのではないか。

#### 現執行部と事務局の確認、次期領域運営委員について

2014年10月から2015年9月の任期を担当する次期運営委員として、大阪大学光科学センターの中新信彦（なかにいのぶひこ）氏が推薦され、承認された。

## 2-2 ビーム物理研究会関連

### ビーム物理研究会・若手の会について

沖縄科学技術大学院大学において、研究会を11月28日～29日、若手の会を29日～30日にわたり開催し、成功裏に終了したことが報告された。来年度の開催は京都大学・宇治キャンパスにおいて開催することが決定された旨報告された。

### Web/サーバー管理について

現在の体制：KEK・佐藤氏（サーバ管理）、広大・宮本氏、KEK・佐藤氏（Web 管理）  
Web 管理担当者を随時募集中との報告がなされた。

### 入会申し込み、会員名簿について

前回の世話人会で、自宅などの個人情報、所属機関連絡先がない場合にのみ記入すること、メールによる入会も可能とすることが承認された。また、入会方法（HP）の変更点、入会申込書の改定が報告された。

## 2-3 日本加速器学会関連

### 後継者育成について

●奈良女子大学の小川先生が毎年主催している研究会（フォーラム 21）に出席した際、女性研究者・大学院生の参加者が非常に多かった。女性を増やすということなら、小川先生にお声掛けして関東でも同様の研究会を開催してはどうか。

●早稲田大学では、1 回生を「応用物理学ゼミナール」として週 1 回、研究室に配属させる。3 回生になると、応用物理学実験の実習があり、その中で加速器のテーマを入れている。すると、6 人の募集に対して 10 人の学生が配属を希望した。1 回生、3 回生の時に仕掛けると学生は動く。このシステムを他の大学でも実施すれば、おのずと問題は解決するのではないか？

### 西川記念シンポジウムの共催に関して

KEK・野崎氏より、西川哲治先生の名を関したシンポジウムを、ビーム物理の合同シンポジウムにおいて開催することが提案された。趣旨としては、物理学会に参加する学生が集まることを期待し、若手研究者を後援者とするシンポジウムとする旨が提案された。

●加速器学会よりも物理学会の方が加速器「ユーザー」が多く参加するので、よりふさわしいのではないか。

●シンポジウム名は「西川記念シンポジウム」ではどうか。

●当面の窓口は KEK・野崎氏が担当する。

●西川賞の受賞記念講演としてはどうか？

←それでは新人の勧誘とならないのではないか？

←テーマの選択はよく考える必要がある。

●合同シンポジウムのアレンジの方法が、運営委員としてはノウハウがない。どうすれ

ばよいか？

←コアになる研究者を中心に、その方の人脈でもって輪を広げていくことになるのではないか。

●西川賞の決定時期は？

←1月なので来年は間に合わないかもしれないが、どうか？

←西川賞は若手に対する賞である。西川賞受賞記念講演とシンポジウムを合わせて開催してはどうか？

←受賞記念講演自体は受賞時にも行われる。

←西川賞と1年ずれても良いのではないか。

●**次回の領域委員会は5月21日**に開催される（上坂会長出席）。それまでに提案し、他の領域の反応を見る必要がある。早めに提案書を上坂会長へ提出する必要がある。

#### PTEPについて

PTPでは月に10件程度の掲載であった。PTEPに移行して、10・20/月となった。インパクトファクターはおよそ2.5となっている。投稿料の補助については、今後10年くらいは継続できる。原資としては、KEK、YITP、理研、PTEPの基金、科研費がある。

●セッション座長が、良い発表に対して投稿を薦めてはどうか？

●投稿数を増やすために、特集を組む計画がある。例：J-PARC、計算物理

#### 次回の総会・世話人会

世話人会：2014年8月8日～12日 加速器学会年会（青森）開催中に実施

総会：2015年3月21日～24日 物理学会（早稲田大学）開催中に実施

以上